

うだちから

「うだちから」とは、宇陀に由来からある地域コミュニティの力(宇陀力)のこです。このコーナーでは、市が取り組む「まちづくり」やNPO団体などを紹介します。
 問 まちづくりは援課 ☎82・3910/IP ☎88・9094

① 田口の郷光のキャンパスイルミネーション

～田口地区まち協～

毎年、冬の恒例行事となっている「田口の郷光のキャンパスイルミネーション」を、12月12日から1月11日まで「ふるさと元気村」で開催しました。
 この行事はイルミネーションを設置することで、心温まる地域住民の交流や連帯を図り、地域の魅力上昇により当地域への訪問者の増加を目指す事業です。



▲光のトンネルの作成

12月12日早朝、ふるさと元気村に約20人が集まり、小型のクレーンやハシゴを使い、約10メートルのポールを立てたり、建物の3階や屋根の上から支線を垂らしたり、一日がかりで建物とグラウンドを使ったイルミネーションを完成させました。
 このイルミネーションは、市の補助金を活用したLEDランプを使用していて、期間中毎日18時から21時まで点灯しました。澄みきった空気のなか室生下田口の一角に、ひとときわ鮮やかな空間を作り出しました。



▲点灯したイルミネーション

② 旧伊勢本街道を整備 歩かれる方へおもてなし

～内牧地域まち協～

12月13日、内牧地域の歴史的遺跡を広く知ってもらうために防犯・防災部会員で、自明から高井の間の旧伊勢本街道の清掃や草刈りなどを行いました。
 この旧街道は内牧地域から御杖村を通り、伊勢神宮までつながっています。この道を歩いて「お伊勢参り」をすることが江戸末期に盛んとなり、大阪方面から奈良を通り伊勢神宮に向かう方が大勢いました。現在でも



▲整備をした防犯・防災部会員

往時の「お伊勢参り」を体験する催しが実施されており、市外から宇陀市へ来て旧伊勢本街道を歩かれる方も多くいます。
 この旧伊勢本街道を含めた周辺の袴ヶ岳などへの登山道の整備も行っており、まち協ではこれからも、旧街道の景観保持や案内板の更新・追加などを予定しています。また、要所には、通る方が安全に、また安心



▲整備中の草刈り

③ 第九を聴く会

～向渕地区まち協～

12月19日、やまびこホールで「ベートーヴェン『第九』を聴く会」を開催しました。
 新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、参加者を20人以内とし、マスク着用と換気、更に座席の間隔を大きくとり、スクリーンに映し出された演奏を視聴しました。

はじめに山下征一郎会長から、今回初めての試みとしてこの催しを行うことや、なぜ日本では年末になるとベートーヴェンの『交響曲第9番』を聴くのか、またこの曲が初めて演奏されたときのベートーヴェンの逸話などを織り交せて開会のあいさつがありました。
 その後、交響曲の視聴が始まり、参加者は、静かにスクリーンを見つめ、1時間あまり穏やかな気持ちで聴き、演奏が終わると盛大な拍手を送っていました。
 当まち協では、コロナ禍のなかでも工夫をして、地域の交流や連帯等の向上のための事業を実施したいと考えています。



▲間隔をとり静かに視聴

まち協などの催し予定 2月

(1月15日現在)

日	曜日	イベント案内	主催
	毎週金曜日	榛原駅前 UDA OPEN STYLE 「かなえば」	榛原地区まち協
11	木・祝	宇陀松山初えびす	宇陀松山まち協



ツクシ

ツクシはスギナの胞子茎で、この胞子がまだ出ていない若いツクシを摘んで、節部のハカマを除き、アク抜きして食べます。
 風味があつておいしいのは穂ですから、頭が青いものを探取しましょう。
 胞子が飛んでしまったものは、熱湯(酢を少々入れるとよい)で、さつとゆで、ザルにあげて水を切り、適当に切って、だし汁としょうゆ、みりんを煮立てて煮びたしにします。この味のしみこんだ煮びたしに卵を流し

入れて、卵とじにすると、万人向きのおいしいおかずになります。
 また、炊きあがったご飯の上に、煮びたしを載せ、酒を振りかけて蒸らすと、ツクシご飯ができあがります。
 ツクシにはおもしろい作用があります。一緒に飲んでいる医薬品の効き目がよくなることです。また、ツクシを食べると去痰薬となり、痰の切れにくい老人の痰が取れ、老人や小児の栄養食ともなります。



▲いろいろな食べた方のあるツクシ。
 ※当市で「薬草活用講演会」をしていただいた村上光太郎先生の連載より一部抜粋

薬草道遥(やくそうしようよう) 毎回「薬草」に関わる内容を連載でお届けするコラムです。

問 商工業課 ☎82・5874 / IP ☎88・9075